

質問2:第7期高齢者支援計画の策定に当たっては、市民参加の手法としてアンケート調査やパブリックコメントの実施がある。その他に、地域に出向いて被保険者や関係者との意見交換会などを取り入れ、高齢者を取り巻く現状と課題の実態把握を行い、計画に反映させてはどうか。

答弁2:第6期計画では、地域ぐるみの支え合いの体制づくりとして「地域包括ケアシステム」が提唱され、高齢者の生活の課題解決への方向性が示され、介護保険制度についても総合事業をはじめとする大きな改正があり、被保険者や事業者に多大な影響を与えることが想定されたため、タウンミーティングを開催。

第7期計画に関する国が示す方針については、「地域包括ケアシステムの着実な構築と定着」となっている。介護保険制度についても、介護保険料の改定はもとより、一部の現役並み所得者の負担割合が2割から3割に改正される等市民の皆様への影響も生じることから、直

に声を聴く機会として、地域懇談会やタウンミーティングを継続して開催すること。

現場からの情報収集については、介護サービス利用者やその家族からの意見や提案に関して、市が設置している介護保険制度モニター連絡会の場を活用したいと考えている。

改善のキーワードは、「全国共通の見える化システム」「地域包括ケアシステム」そして「タウンミーティングの継続」「支援の必要な高齢者に一番近い介護保険制度モニター連絡会の場を活用」。

西川コメント 現在策定中の第7期の根幹に触れるポイントであり、細かな数字などでの表示はないが、真摯な姿勢・態度で「7期高齢者支援計画」策定に臨んでいることが確認できた。完成後の市民への周知活動がタウンミーティング、地域懇談会などでなされ、モニター連絡会からのホットな情報が政策に生かされるようチェックしてゆきます。

その2

人口増加に伴う 児童・生徒の受け入れ態勢について

質問:本年4月に算出した今後6年間の児童・生徒数推計及び想定値から見ると、義務教育期間の児童・生徒の受け入れ態勢として、既設のおおたかの森小学校等の増改築及び現在検討中の新設校1校の建設だけでは絶対足りないと思うが、見解を問う。

市全体としては本年4月市内16の小学校の児童生徒数が10,109人361教室(特別支援学級含む)が6年後の想定では、3,711人増えて13,820人、教室数は98教室ふえて459教室となっています。中学校も同様に平成35年には965人生徒が増え5,130人、24教室増が必要となり、本市合計では児童生徒数4,676人増の18,950人、教室も122増えて623教室と想定されています。

しかしこれは減るところもありでネットの数字となっています。特に小学校に的を絞り、浮き彫りにしてみますと、大幅増改築と新築の候補となっている4小・1中学校の実態です。現状の1.5倍以上(最大で2.5~3倍)の規模が必要です。

生徒数の大幅増が想定されている小・中学校の対応は？
その中で例として「おおたかの森小」は1,049人が2,990人、35クラスが88クラスとなるので現在新小学校1校の建設計画を進めています。当該校の増員数は市全体4,676人増の4割以上を占めています。また国の前例(ガイドライン?)としては1学校48クラスを上限としているとのこと。計算上は88クラスで2校の範囲内ですが、1校新築計画では足りないのではないかと危惧して質問しました。

答弁:「小学校1校の新設での対応を考えていますが、今後も児童・生徒数推計及び想定値を注視し、状況に応じて必要な対策を講じてまいります。」

西川コメント 確かに財政的にも2校で検討しますがとは言えないが、綱渡りの感があるので今後もWatchしてゆきます。おおたかの森中が1学年4クラスが3倍の12クラスへ! 1学年12クラスですよ! 皆様のご感想は?

特報! 高齢者の抱える諸問題について あなたのための特別講演会 急遽開催

皆さん高齢者の方々やご家族が、知りたいけれど、訊きたいけれど、なかなか訊けないことを

ズバリ解説!!

「目から鱗」

「気にしていた項目にガッテン!

そんな講演会を開催します。



日時:平成29年7月30日(日)午前10時~12時

会場:流山東部公民館

テーマ1:

安価な葬儀・相続/遺言・成年後見(市民後見)

講師:高齢者安心ネット・代表 酒井睦夫氏

テーマ2:

高齢者に就活ならぬ終活...延命治療・尊厳死とは

明日は我が身に?!

講師:向小金クリニック院長 大津直之先生